

速報：8月17日刊行されたベリー・ローダン2400話ダイジェスト

Robert Feldhoff

■目標時間 Zielzeit

新銀河暦1346年、銀河系――

「〈混沌の勢力〉の計画に、よれば～」
 「局部銀河群のハンガイ銀河は、〈負の球体〉に、なる運命」
 「局部銀河群は、〈混沌の勢力〉の大軍勢＝終末戦隊〈反逆者〉^{トレンジャー}の、制圧下」
 「銀河系は、ほとんど全域を制圧されて、ただの資源採掘銀河あつかい」
 「主要な惑星は、遠からずして～」
 「アコン人の主星ドロラー、太古遺産の惑星ハヨク……の、ように、解体されて～」
 「〈混沌の勢力〉の機動要塞〈カオテンダー〉の部品となる、運命」
 「自由テラナー連盟の主星系ソルだけが～」
 「テラノヴァ・バリアで、何とかもちこたえて、いたのです」

4月8日、星系ソル――

「この日～」
 「自由テラナー連盟政府首席ベリー・ローダン、宣言して曰く」
 「――〈時称作戦〉^{ミッションテンパス}は、秒読み段階にはいった」
 「カロン星団の、ジョナサン研究所から～」
 「クルカリエン・ヴァランティル――太古の記憶をもつ、アルゴリアン」
 「レ・アニャンテさん――同じく、太古の記憶をもつ、アルゴリアン」
 「マルコム・S・デーリアン――生命維持装置なしに生きられない中枢神経系」
 「3名と、共に～」
 「――ついに、〈文脈改竄機〉^{コンテキストグランドラー}が、到着したのだ」
 「かくして～」
 「政府要人一同、衛星ルナのアーロン・クイッポ・ドックに、おもむき～」
 「最終艦装中の《ジュール・ヴェルヌ》を、見上げることに」
 「……」
 「《ジュール・ヴェルヌ》――」
 「外観は、いわば、小型の《ソル》」
 「全長2400mの、亜鈴型」
 「直径800mのアポロ級球形艦《JV1》と《JV2》を～」
 「全長800mの円柱状の中央艦体に、繋いだ形」
 「表向きは、ハイパー物理学的抵抗増大前の技術の、研修艦」
 「メタグラヴも、グリゴロフも」
 「パトロロン・バリアも、ミニATGも」
 「現在、稼働が可能なものも、不可能なものも～」
 「とにかく、本物・全部入り」
 「動かない技術は～」
 「艦載脳〈ネモ〉が、シミュレートして、研修生のお役に立ちます」
 「その、実体は？」
 「中央艦体に〈文脈改竄機〉を、搭載して？」
 「――過去に、跳ぶのだ」
 「――目標時間は？」
 「――2000万年前……超知性体アルケティムの時代だっ」
 「誰が？」
 「乗員は、3500名」
 「指揮するのは、政府首席ベリー・ローダン」
 「政府次官モンドラ・ダイヤモンド――ベリーの、いわゆる元カノ」
 「ゲッキー」
 「アラスカ・シェーデレーア」

「イホ・トロト」
 「――そうそう、ミニ象のノーマンも、連れていきましょう」
 「……」
 「2000万年前――」
 「銀河系が、ファリスケ・エリゴン銀河と、呼ばれていたころ～」
 「当地を統治していた、超知性体アルケティムは～」
 「ほかに数体の超知性体と、ともに～」
 「距離4500万光年の、タレ・シャルム銀河で～」
 「〈負の球体〉の誕生を、阻止したのです」
 「――その手法を、見学に行くのだ」

星系ソル、〈時称作戦〉秒読み段階――

「政府首席ベリー・ローダンを、来訪したのは～」
 「いまさらながら、ロト・ケレーテ――超知性体〈それ〉の使者」
 「――この宙域に干渉は難しい、と聞いていましたが？」
 「――だって、コレ、〈ニュークリアス〉の力を借りた、投影像だし」
 「――本当は、どこにいるのです？」
 「――超知性体〈それ〉のトコロ」
 「――どこに、いるのです？」
 「――超知性体〈それ〉は、ハンガイ銀河の件に、関わりたくないってさ」
 「教えたく、ないようです」
 「――でも、超知性体〈それ〉の現住所には、テラナーがいないし」
 「――淋しいから、人類が疎開を望むなら、受け入れても良いってさ」
 「――キミも、〈時称作戦〉を生きのびられるか、わからんし」
 「――悪い提案では、ないだろう？」
 「そんな身勝手な提案、即刻拒否ですが」
 「――コレを、渡しておくからね」
 「サッカーボール大の〈銀球〉――オールドタイマーの、技術装置？」
 「――気がかわったら、コレで連絡してほしいってさ」
 「2000万年の過去から、現在の〈それ〉に連絡する手段」
 「なのでした」

新銀河暦1346年4月15日――

「《ジュール・ヴェルヌ》は、衛星ルナを、発進」
 「恒星ソルに、接近すると～」
 「――ひゅん」
 「プロミネンスに隠れて、〈文脈跳躍〉」
 「〈時称作戦〉、開始です」

紀元前2005万9813年――

「超知性体アルケティム死去の、4年前」
 「――ひゅん」
 「《ジュール・ヴェルヌ》、到着です」
 「が」
 「ストレンジネス・ショックのため～」
 「とにかく、まともに、動きません」
 「そんなとき」
 「転子状艦250隻に、包囲されました」
 「ショーク種族――超知性体アルケティムの補助種族――の艦隊です」
 「艦隊司令ファクト・リムファル、曰く」
 「――この、プレッサー親衛隊めっ」

「どうやら～」

「〈混沌の勢力〉の、カオプレッサーの関係者と、誤認されている？」

「そこへ」

「不運にも＝幸運にも～」

「本物の〈混沌の勢力〉——〈反逆タンク〉艦隊——が、襲来」

「撃退して～」

「ようやく、誤解が解けました」

「……」

「ショハーク艦隊司令ファクト・リムファルを～」

「《ジュール・ヴェルヌ》に、招待しましょう」

「すると」

「——！」

「ペリー・ローダンと、対面した～」

「ショハーク艦隊司令ファクト・リムファル、びっくり」

「〈深淵の騎士〉のオーラに、驚いている？」

「——女将軍カムコさまの〈太陽のオーラ〉に、似ているデス」

「——そのヒトは？」

「——〈法行進〉の最高司令官にして～」

「——超知性体アルケティムの最高官で、あらせられるのデス」

「ところで」

「——わたしは、ペリー・ローダン」

「——試運転の途上、ごらんのとおり、往生してます」

「——助けては、いただけまいか？」

「適当なでまかせ、ですか～」

「ショハーク艦隊司令ファクト・リムファルは、疑いもせず～」

「《ジュール・ヴェルヌ》を、直径4 kmのテンダーに係留」

「ファリスケ・エリゴン銀河の中心惑星オアゴニルに、向うのですた」

星系オア、惑星オアゴニル——

「《ジュール・ヴェルヌ》は、星系オアに到着」

「そこには、遊弋する、〈法行進〉艦隊68万隻」

「タレ・シャルム銀河遠征に向けて、集結している模様」

「と」

「惑星オアゴニルから、旗艦《タロシ》が、接近」

「女将軍カムコ、《ジュール・ヴェルヌ》へ、乗りこんできます」

「……」

「女将軍カムコ——アエガン人」

「身長1.7m。ヒューマノイドに、見えなくもない」

「——ステキな異類を求めて、宇宙を旅するの」

「アエガン人は、異類と交配するのが、本性です」

「それはさておき」

「——あら、〈深淵の騎士〉のオーラねー、ほほほ」

「——ご慧眼ですなー、ははは」

「なんて社交辞令から、はずむ会話」

「——《ジュール・ヴェルヌ》は～」

「——超知性体の卵〈ニュークリアス〉の依頼で、活動しております～」

「——依頼主の後学のため～」

「——ぜひ、超知性体アルケティムの偉業に、同行・観察したい」

「ペリー・ローダン……さすが、でまかせは、一流です」

「対する、女将軍カムコ、他人には言えないことが、あります」

「超知性体アルケティムは、現在、表向きは出張中」

「今回、〈法行進〉現場指揮のため～」

「じつは、こっそり戻ってきては、いるのですが～」

「——（最近、隣接星系にまで、プレッサー親衛隊が出没するようになって～）」

「——（本当は、〈法行進〉艦隊を今にも発進させたいのに～）」

「——（超知性体アルケティムと連絡がとれずに、困っているの）」

「二重三重に、口には出せない話ですね」

「でも」

「——《ジュール・ヴェルヌ》の同行許可は、ちょっと待ってね」

「——惑星オアゴニルの着陸許可はあげるから、どこにも行かないで」

「——〈行進本部〉にも来てね、約束よ」

「女将軍カムコ……なんだか、とっても機嫌が良い」

「同席した、グッキーは、テレバシーで、気づいてしまいました」

「ペリー・ローダンに、こっそり耳打ち」

「——ペリー、狙われてるよ」

「ところで」

「同席した政庁次官モンドラ・ダイヤモンドさん、には～」

「個人的な野望が、あります」

「——ペリーと、また恋人に……それ以上にも、なれるかなー」

「かくして」

「女の闘い、秒読み開始、なかんじ」

惑星オアゴニル——

「ショハークたちは、このところ当地を徘徊する盗賊について、噂話」

「依頼があれば、何でも盗む」

「ラオソール種族の、大盗賊三兄弟」

「——首領ボタウク、リムボックス、ヴィズクエガトミ？」

「グッキーが、探してみると～」

「今回の標的は、3つ……とかいう」

「ひとつ、情報——〈法〉付与機の、座標」

「星系クオカンに、隠してあるのは、調査済」

「2つめ、モノ——〈夜光鏝〉」

「女将軍カムコが、超知性体アルケティムから託され～」

「深い地下金庫室に保管する、超装備」

「……」

「一方」

「ペリー・ローダン」

「約束どおり、女将軍カムコを、訪問して～」

「うっかり、ふたりきりに、なってしまいます」

「——だめ？」

「——ダメだ」

「——やっぱり、モンドラさんが、良いのね？」

「——う……」

「ストレートに、問いかけて～」

「口ごもる、ペリー・ローダン」

「人間、長く生きれば、生きるほど～」

「難しくて、口に出せないことが、あるのですた」

惑星オアゴニル、ラオソール種族の大盗賊三兄弟——

「外観は、豹のような四足動物」

「両耳が、両手の機能を果たします」

「自慢の装備は、デフレクターと探知装置とパラボーリゼーター」

「末弟は、ちょっとしたテレポート能力も、有しています」

「……」

「今宵～」

「大盗賊三兄弟は～」
「地下金庫室に、押し入ると～」
「〈夜光鎧〉の3パーツを、盗み出す」
「で」
「首領ボタウク、好奇心・旺盛です」
「——盗んだ〈夜光鎧〉には、どんな秘密が？」
「〈夜光鎧〉の兜を、稼働させると～」
「〈夜光鎧〉の兜は、装着したのが盗賊と、勘づいたようです」
「——いやー」
「兜は、絶叫して、他のパーツとともに非物質化」
「……」
「大盗賊三兄弟は～」
「しばし、呆然」
「——依頼主の、気がしれんよなー」
「まあ、気をとりなおして」
「3つめの標的のコトでも、考えましょう」
「3つめ、ヒト——〈オーラ〉をもった人物です」
「——女将軍カムコ？」
「——警戒されているし、コレは無理では？」
「——！」
「——オイ……もうひとり、〈オーラ〉を持ってるヤツがいるぞ」

惑星オアゴニル、ペリー・ローダン——

「——〈夜光鎧〉が、盗まれた？」
「この報に、接し～」
「女将軍カムコの思考は、単純明快」
「——〈夜光鎧〉は、超能力で盗まれた」
「——グッキーとかいう毛皮生物は、超能力者」
「——告発よっ、ペリー・ローダン」
「《ジュール・ヴェルヌ》は～」
「拘束場と消耗ハイパー次元場で、繋留されて」
「ペリー・ローダン、モンドラ・ダイヤモンドさん、グッキーは～」
「逮捕・連行」
「——無実だっ」
「——信じないっ」
「自己弁護・失敗」
「——やむをえんっ……グッキー、テレポトで逃げるぞっ」
「一方」
「繋留された《ジュール・ヴェルヌ》の、イホ・トロト」
「——やむをえんっ……破壊だっ」
「トランスフォーム砲弾で、拘束場を破壊」
「バタロンバリアで、消耗ハイパー次元場を中和」
「ペリー・ローダン、モンドラ・ダイヤモンドさん、グッキーが～」
「構造亀裂を抜けて、テレポトしてきたら～」
「あとは、艦ごと、逃げるまで」
「が、惑星オアゴニル周囲には、〈法行進〉艦隊68万隻が……」
「で」
「一計を案じた、ペリー・ローダン」
「《ジュール・ヴェルヌ》は、惑星首都中心部へ転針」
「そこに鎮座するのは、超知性体の玉座、〈アルケティム至聖所〉」
「びったりはりつくように飛行する乱入者に、自動機構が働きました」

「——ひゅん」
「《ジュール・ヴェルヌ》は、強制テレポトされて、自由空間へ」
「そのまま、宙域離脱です」

惑星オアゴニル、女将軍カムコ——

「——銀河全域に、指名手配よっ」
「と、命じた、ところが」
「——え？」
「——〈夜光鎧〉が、勝手に戻ってきた？」
「——本当に、無実だったのねー、ごめんなさい、ペリー……ほほほ」

——恒星の陰に隠れた、《ジュール・ヴェルヌ》——

「自由テラナー連盟政庁首席ペリー・ローダン」
「キャビンで～」
「たわむれる、ミニ象ノーマンとか～」
「〈銀球〉を～」
「じっと眺めて、思うこと」
「——やっちゃまったよなー」
「機器類は、本調子でないし」
「時間跳躍は、まだ無理なかんじ」
「どうやら、時間遠征は、長引きそうです」
「——気が変わったわけでは、ないのだ」
「——でも」
「——超知性体〈それ〉が、あの提案を～」
「——全人類に伝えることは、許諾しよう」
「——超知性体〈それ〉の提案を、うけて～」
「——疎開するかは、ひとりひとりの判断だ」
「——でも」
「——オレは、防衛するぞ」
「——みんなも、できれば～」
「——テラにとどまり、いっしょに防衛してくれると～」
「——ちょっと、うれしい」
「なんて、メッセージを記録すると～」
「〈銀球〉は、未来へ、旅立ちました」

ところで、ラオソール種族の大盗賊三兄弟——

「〈オーラ〉をもった人物を、誘拐するべく～」
「《ジュール・ヴェルヌ》に、潜入したのですが～」
「こんな場所に、停泊されては～」
「誘拐した後、逃げ道がありません」
「首領ボタウクの決断で～」
「盗賊基地《ラオマーク》、《ジュール・ヴェルヌ》に接近中」

—— 以下、次号

[<http://www.perry-rhodan.net/produkte/hefte/1/2400.html>]

【関連サイト】

・ 出版社が運営するドイツ公式サイト [<http://www.perry-rhodan.net/>]
・ 2400 話記念サイト [<http://www.pr2400.de/>]